

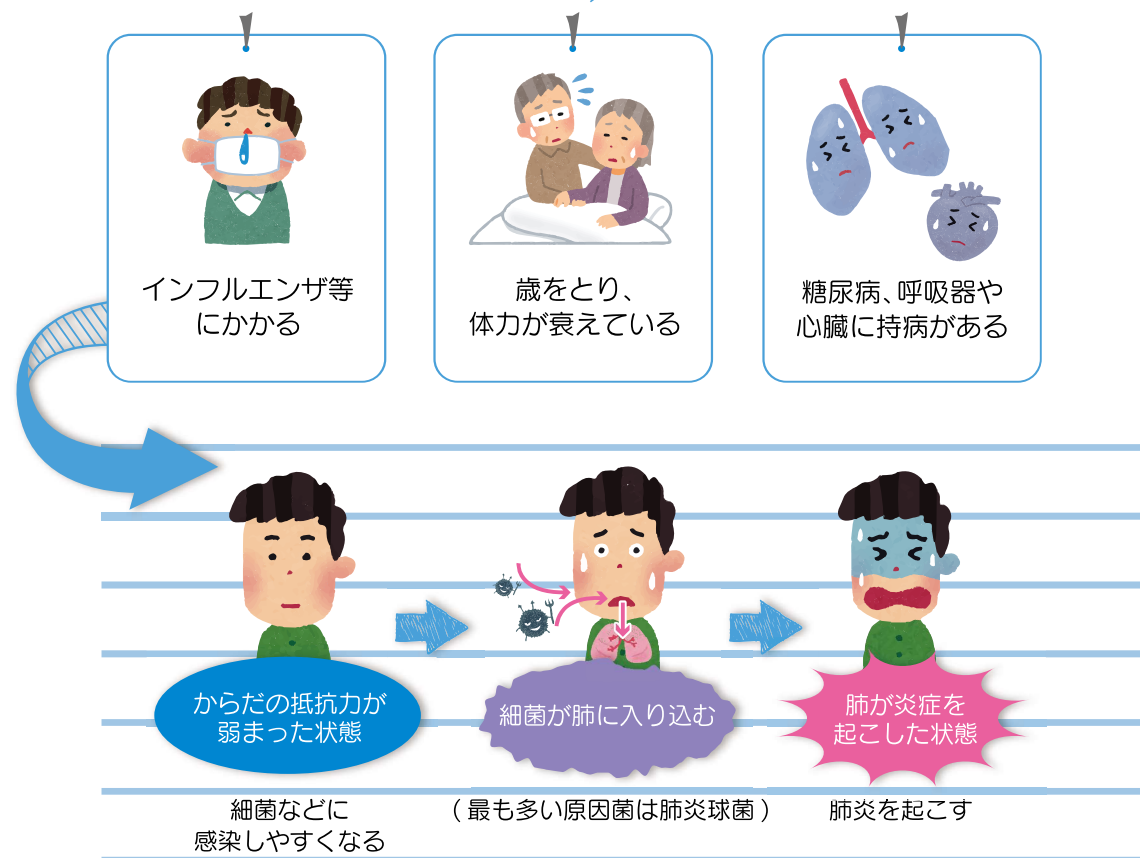
肺炎について



呼吸器内科 主任診療科長

仲地 一郎

体の抵抗力（免疫力）が弱まる



肺炎とは

今回は日常よくみる病気の一つ、「肺炎」についてまとめました。ありふれた病気ですが、時に命に関わることもあります。健康な生活を送るために、身近で危険な肺炎について正しく認識しておきましょう。

まず、肺炎とは一体どういう病気でしょうか？一般的には、細菌やウイルスなどの病原微生物が肺に入り込んで感染し、肺が炎症を起こしている状態を「肺炎」と呼びます。病原微生物は身の回りのどこにでも存在しているのですが、からだの免疫力が弱まったときに感染しやすくなり、肺炎を発症すると考えられています。重症肺炎にかかってしまうと時に致命的な経過をたどります。日本人の疾患別死亡原因の中では、がん（悪性新生物）、心疾患について第3位になっています（図1）。高齢になるほど死亡率が上がります。

最も多い微生物

肺炎の原因となる微生物は、200種類以上あると言われています。その中でもっとも頻度が高いのは、肺炎球菌です（図2）。よく耳にする菌種ですが、重症肺炎の原因菌にもなるので、「ありふれた菌種」すぐに治る」と安易に考えないようにしましょう。

インフルエンザと肺炎

冬の乾燥した季節はインフルエンザウイルス感染の流行期になります。この時期には、ウイルス感染で傷んだ喉や気管にさらに菌が感染し（二次感染）、その結果、肺炎も増えます。肺気腫や糖尿病など慢性疾患がある方に起こりやすく、時に重症化します。手洗いやうがいを励行し、ワクチン接種を受けてしっかりと予防に努めましょう。

図1 主な死因別に見た死亡率の年次推移

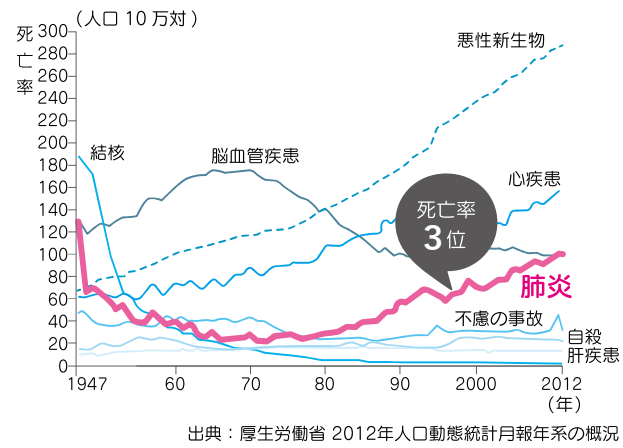


図2 肺炎球菌の画像

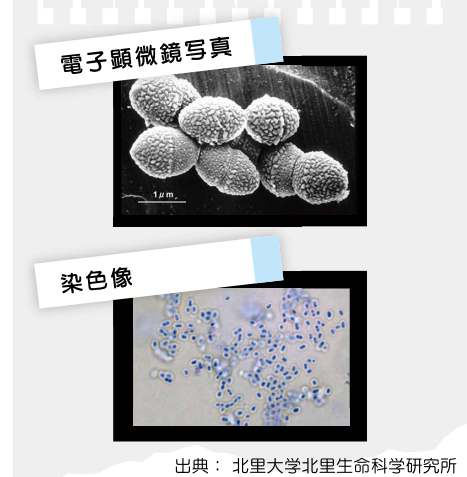


図3 正常に嚥下している状態(左)と誤嚥したときの状態（右）

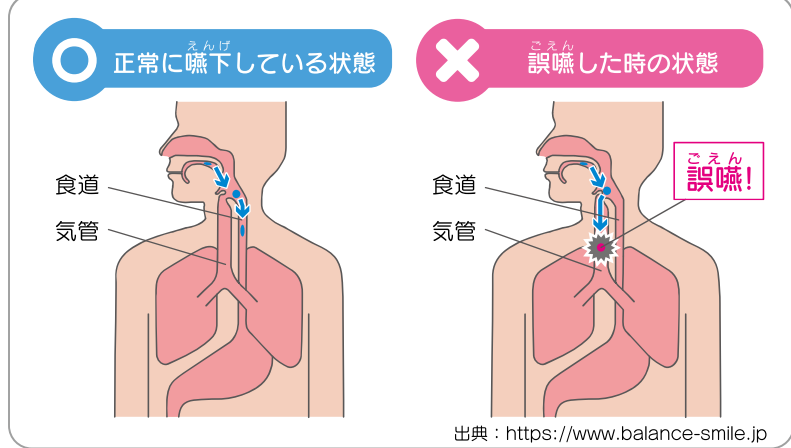
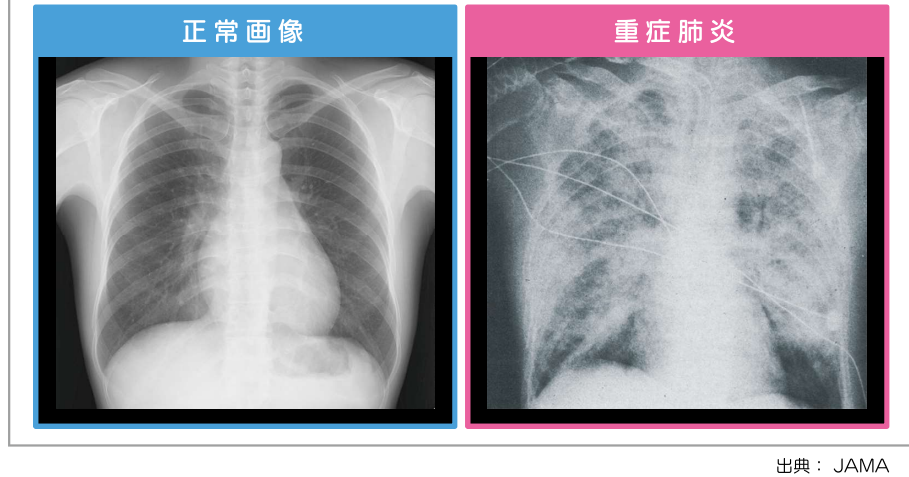


図4 胸部レントゲンでみる正常画像（左）と重症肺炎画像（右）



誤嚥性肺炎

高齢者や脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）のある患者さんに起こりやすい肺炎が、誤嚥性肺炎です。食物が間違えて気管・肺に流れ込んだり、口腔内が不潔だったりすることで起こります（図3）。繰り返しやすく、寝たきりになってしまふこともあります。からだを起こした時間を作り、ゆっくり少量ずつ食べ、食後の歯磨きやうがいを徹底するなどして口腔内を清潔に保つように心掛けましょう。

重症肺炎

救命救急センターである当院には、季節を問わず多くの重症肺炎の患者さんが運ばれてきます。重症肺炎には、肺炎そのものが重篤な場合から、高齢者や悪性腫瘍などの基礎疾患を持った方の肺炎が急激に悪化した場合まで含まれますが、一般的には、予後の悪い、生命の危機に瀕している肺炎を指しています（図4）。

肺に限らず、心臓や腎臓など多臓器の状態変化に絶えず注意しながら集中治療室にて治療する必要があります。当院には、呼吸器の専門知識を持った

呼吸器専門医、認定看護師で構成された呼吸ケアチームがあり、重症肺炎治療や人工呼吸器管理などに日々携わっています。

※予後とは、予想される医学的な状態（健康状態）に関する、経験に基づいた見解です。予後が悪いとは、見通しが悪いことを表します。

筆者紹介

呼吸器内科主任診療科長
仲地 一郎 医師



【学会専門医学】
医学博士
日本内科学会 総合内科専門医
日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医
日本呼吸器学会 呼吸器専門医